

人はみな
生かされて
生きてゆく
更生保護ネットワーク

高槻地区 保護司会だより

〔事務局〕 高槻市社会福祉協議会内
〒569-0065 高槻市城西町4番6号
☎ (072) 674-7684

〔責任者〕 高槻地区保護司会
会長 岩本 育司
〔編集〕 広報部

121号

2024年
(令和6年)

10月1日

第74回 “社会を明るくする運動” ～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



◆オープニングセレモニー

- ・とき 7月1日（月）17：00～18：00
あいにくの雨で、パレード・消防音楽隊の演奏はできず、生涯学習センター1階でのオープニングセレモニーとなりました。約90名が出席し、社明の強調月間の開始が宣言されました。

◆中央集会

- ・とき 7月6日（土）13：30～16：00
- ・ところ 高槻市生涯学習センター2階多目的ホール
- ・講演 大阪少年鑑別所所長
法務技官 西岡潔子さん
- ・演題 「思春期の子どものごころと支援」
～少年鑑別所の現場から～
- ・演奏：高槻市立冠中学校ブラスバンド部
参加総数は、約150名でした。

◆更生保護茶会・矯正施設等作品展示即売会 (主催：高槻地区更生保護女性会)

- ・とき 7月15日（月・祝）10：00～15：00
- ・ところ ホテルアバスタグランデ高槻
ご来場数は700名超となり、大盛況でした。



目次

- 【1面】 第74回 “社会を明るくする運動” 報告
- 【2面】 「中央集会に参加して」 北摂ブロック保護司会会長会議報告
- 【3面】 作文コンテスト優秀作品 高槻市立第九中学校
- 【4面】 作文コンテスト優秀作品 高槻市立第十中学校
- 【5面】 地域集会実施報告 第一期定例研修会報告 自主研修会1報告
- 【6面】 会員文芸欄 あとがき

中央集会に参加して

7月6日（土）に、生涯学習センター 2階多目的ホールにて、第74回“社会を明るくする運動”の中央集会が開催されました。

推進委員会委員長の濱田高槻市長と来賓の方々の挨拶のあと、第一部は大阪少年鑑別所の西岡潔子所長による『思春期の子どものこころと支援』～少年鑑別所の現場から～という演題での講演が行われました。

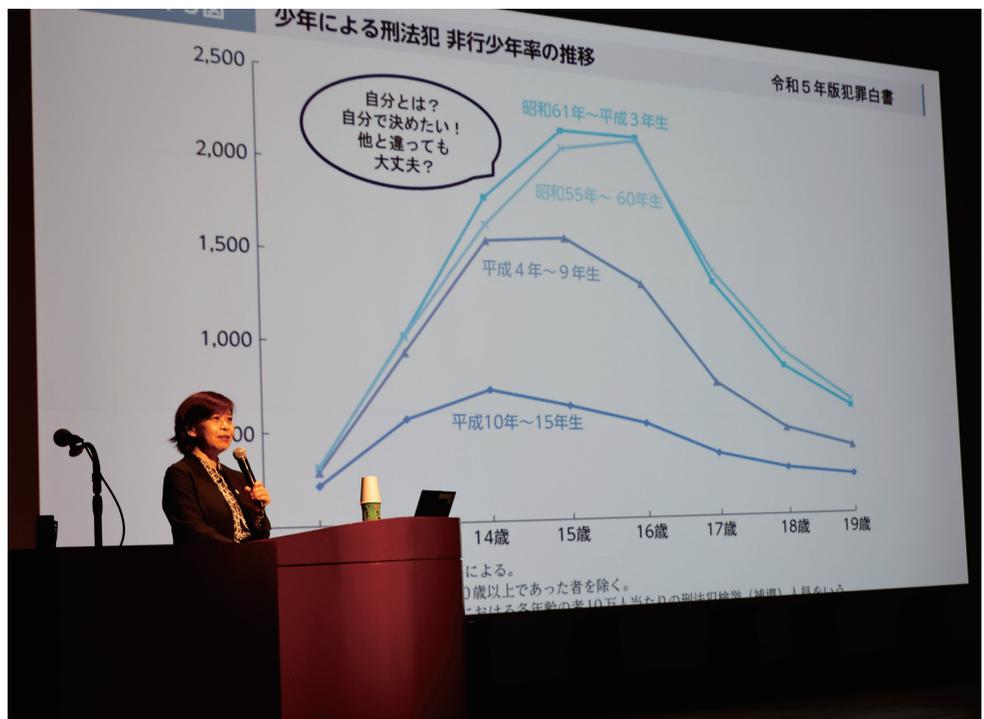
現職の所長としての立場で、実際の現場の状況や考えを述べられたことで、少年鑑別所という組織を少し身近に感じることが出来た講演でした。また、少年鑑別所の新しい関わり方として「大阪法務少年支援センター」において、いろいろな心理相談等に応じておられるとのことで、さらに身近な組織になるように思われました。

講演後の第二部では、高槻市立冠中学校ブラスバンド部の皆さんによる若々しく迫力のある演奏で、会場全体が大いに盛り上がりました。最後に推進委員会副委員長の山田島本町長の閉会の挨拶をもって、今年度の中央集会は終了しました。

（広報部 長尾記）



高槻市立冠中学校ブラスバンド部



北摂ブロック保護司会会長会議

北摂ブロック8地区（7市3町で構成）の保護司会会長会議で、年3回ほど、当面の諸問題の検討、情報交換等を目的として開催されており、今回は高槻地区（高槻市・島本町）が担当となり、約50名の参加を得て行いました。

今回のテーマは、全国的な保護司の担い手不足解消に向けて、現在法務省が検討している「公募制の導入」についての問題点を各地区から出し合い、その意見交換を行うとともに、本年度の各地区における“社会を明るくする運動”への取り組みについての情報交換を行いました。（総務部 岩本記）



6月21日（金） 於 JAたかつき本店ビルコミュニティホール

第74回“社会を明るくする運動” 高槻地区推進委員会 作文コンテスト優秀作品

「地域から犯罪をなくすために」

高槻市立第九中学校1年 藤村 陽太

私は「犯罪のない、みんなが安心して暮らせる地域づくり」を進めるためにはまず、地域で犯罪を起こしづらくすることが大切だと思います。犯罪を起こしづらくするには、地域の人との結びつきを大切にすべきだと考えました。地域の人との結びつきを深めていくことで、事件に巻き込まれたり、親に虐待されたりした時、地域の人に助けってもらったり、守ってもらうことができ、心と体の拠り所になれると思ったからです。しかも、地域の人達も子供達とのつながりができることで、活力や元気をもらうことができると思います。

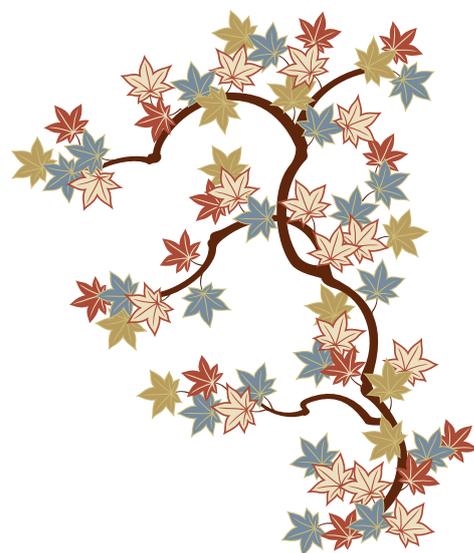
地域の人達とのつながりを強めるには、地球の人たちと触れ合える場所と体験を増やしていくことが必要です。そのため、公民館や公園、図書館などの公共サービスの場を増やしたり、その場所での特別なイベント、例えば祭りを開いたり、学校の授業で、老人達と交流する場を設けたりなど、大規模なこと以外での方法として、挨拶などの簡単なことを少しずつ行動していくことでも、地域の人達とのつながりを強くしていくことに繋がると思います。

他に犯罪を起こしづらくする方法として、防犯カメラを設置することも重要になると思います。防犯カメラを設置することで、犯罪を起こそうとしている人達に対して、見られるからできない。などといった、感情を相手に作らせ、犯罪を抑制できると思います。しかし、あまりにも防犯カメラを設置しすぎると、住民の人達は、誰かにずっと見られているような気分になる人が出てきたりして、本当に安心できる地域にできない可能性が出てきます。そのため、犯罪の多い地域が、人気のない路地裏など、場所を限定して設置することで、見られているような気分になる人が出てくる可能性を低くすることが

できると思います。

犯罪を抑制する以外で、犯罪を減らしていくための方法として、そもそも犯罪を起こす理由を無くしていけばいいと思います。なぜなら、犯罪を起こす理由として、不満がある、という人が多いと考えたからです。例えば、盗みを行う人は、金がない、という不満を消すために、価値のある物を盗んだりするのだと思ったからです。そういった人達は、金のために犯罪を犯してしまうので、そういった人達に、生活支援や、仕事をあたえるといった方法を取り、金のために犯罪を犯さないようにするなどして、犯罪を起こす理由を無くしていけば良いと思いました。

私は、「犯罪のない、みんなが安心して暮らせる地域づくり」のためには、犯罪を起こしづらくするために、地域の人との結びつきを大切に、防犯カメラを設置する、犯罪を犯す必要をなくす、などの行動を行えばいいと思いました。地域の人達との交流などは、自分でもすぐにできるので、これからやっていきたいです。



第74回“社会を明るくする運動” 高槻地区推進委員会 作文コンテスト優秀作品

「この夏、気づいたこと」

高槻市立第十中学校1年 飯塚 愛美

この夏、私はサマーキャンプにボランティアとして参加しました。

サマーキャンプとは、第十中学校校区の青少年健全育成連絡協議会が主催している小学四～六年生対象の一泊二日の定例行事です。私は過去に二回、この行事に児童として参加していました。その時は、ただただ楽しい夏の経験でした。

しかし今年は中学生ボランティアとして参加することになり、これまでとは違った経験をすることになりました。

まず、小学生五人からなる班を任せられました。移動した際の班員の点呼を始め、野外調理やイベントで使用する荷物の運搬、班で使用する部屋の清掃や管理など、責務は多岐に渡りました。

特に気をつけていたのは、班員の顔色や様子に注意を払うことでした。私には五歳下の妹がおり、普段彼女と接している中で、楽しいことがあると水分補給を怠ったり、自分の体調の変化に気づけなかったりすることがよくありました。こういった経験から、班員たちも妹より年上とはいえ、同じようなことがあり得ると思い、常に目を見て声掛けすること心がけました。

また、小学生の子たちの中には、小学生での悩みや中学生になることに不安を持っている子もいました。そんな子たちには、私自身が小学生だった時の経験を基にアドバイスをしたり、中学校で打ち込んでいる部活や頑張っている委員会活動、試行錯誤中のテスト勉強のことなどを話しました。できるだけ気さくに、話しやすく聞きやすい雰囲気になるよう心がけました。

そうした中で、私自身にも心の変化が芽生えました。

それは、サマーキャンプの目玉イベントである海での「いかだ体験」でのことでした。これまでのいかだ漕ぎ競争は、勝負にこだわる気持ちしかありませんでした。とにかく勝つため勝つために、自分だけで必死になって周りはあまり見えていませんでした。

しかし今回、自分よりも年下の子たちと漕ぐ

ことにより、積極的に掛け声をかけたり、進みたい方向へ向かうためには班員の誰がどう動けばいいののかを考えて指示を出したりと、ずっと視野を広げて見ることができました。

そうして「いかだ体験」を経験した上で、改めて今回のサマーキャンプという行事について考えてみました。

この行事は、地域の十人の大人の人が計画・準備して、行われています。この大人たちは、全員ボランティアの人たちです。十人皆が、十中校区の子どももたちが楽しく、そして貴重な経験ができるように、考えて行動してくれていました。

今回、私は数人の小学生を率いたことにより、それがどれだけ大変で、どれほど考えられていたのかに気づくことができました。それと同時に、私自身も地域に関わっていける人になりたいと思えるようになりました。

この夏も、地震や台風、酷暑など、自然災害が絶えない日々ではあったけれど、そのような中でも、隣近所で助け合ったり声をかけ合ったりして、困難やトラブルに立ち向かったという嬉しいニュースも沢山見聞きました。

私自身も困っている人を見かけたら助けることができる人になりたいし、そういう人がたくさんいる地域こそ、いい地域と呼べるのだと思います。人と人が関わることで地域ができ、その地域の良さもまた、人と人が作り上げていくものなのでしょう。

今の私は中学一年生で、具体的に何ができるかはまだ何もわかりません。ただひたすらに普段の勉強や委員会活動、部活を頑張ることで精一杯かもしれません。けれど、そんな私でもいざという時は年下の子たちを引っ張っていける人になりたいし、少しでも伝えていきたいと考えています。

だからこそ、日々の自分の行動を今一度振り返って間違っているところがなかったか、この地域の一員として胸を張れる存在かを考えて、これからも精進していきたいです。

第74回“社会を明るくする運動” 地域集会実施報告

地区	月日	場所	内容	講師
高槻 大冠	7/12	春日ふれあい文化センター	①映画「社会復帰を目指す更生社会等」 ②講演「こころを育てる生徒指導」	②城南中学校区内 各校長
芥川 清水 樫田	7/20	第九中学校視聴覚教室	こどもの安全を守る地域集会 お 話 社会を明るくする運動についてと 保護司活動について	保護司
富田 阿武野	7/20	富田ふれあい文化センター	①社会を明るくする運動趣旨 ②講 演「みんなが笑顔でつながる未来へ」 ③演 奏	①保護司 ②交遊亭楽笑 氏 ③高槻市立第四中学校 吹奏楽部
五領 磐手	7/3	第八中学校	八中校区懇談会 ①保護司活動の現状と報告 ②各校の現状報告と地域連携について	
	7/4	五領中学校	五領中校区懇談会 ①保護司活動の現状と報告 ②各校の現状報告と地域連携について	
	7/6	北日吉台小学校	青少年問題連絡会（保護司会共催）の地域集会 ①青健協より、学校の取り組みについての報告と講話 ②保護司活動の現状と報告 ③各校の現状報告と地域連携について	①北日吉台小学校 校長 山川 裕生子氏
	12/15 予定	金光大阪 中学校・高等学校 体育館	第21回ホワイトコンサート 五領地区の小中学校と地域のボランティア団体等による 手作りコンサート	
三箇牧 如是	7/13	如是中学校視聴覚教室	①吹奏楽演奏 ②講 演「矯正施設と矯正教育、そして更生保護」	①如是中学校吹奏楽部 ②近畿地方更生委員会管理監室 保護観察官 岩本 康彦氏
島本	7/23	島本町ふれあいセンター 第4学習室	講 演 「こどもに関わる大人に求められること」 PART2～不登校を考える～	同志社女子大学教職課程センター 特任教授 中川 美保子氏

第一期 定例研修会

日 時 令和6年6月5日（水）13：30～15：00
 会 場 高槻市地域福祉会館3階 研修室
 テーマ 「保護司としての基本的姿勢・保護司による
 処遇等関係保有個人情報取扱等について」
 講 師 中村暢子主任保護観察官

保護観察活動における基本的な研修を通して、
 初心時の緊張感を再確認することができました。
 参加者は、42名でした。（研修部 井本記）



自主研修会 1

日 時 令和6年8月20日（火）13：30～15：00
 会 場 高槻市地域福祉会館3階 研修室
 テーマ 「発達障害をもつ青少年の理解と対応」
 —アタッチメント障害との関連から—
 講 師 大阪経済大学人間科学部 教授 鶴飼奈津子氏

平素より曖昧な理解で社会や保護観察対象者と
 接触していましたが、これからの保護観察活動が
 より質の良いものになるよう知識を深めることが
 できました。参加者は、保護司会30名・更生保
 護女性会5名・協力雇用主会1名・更生保護振
 興会1名、計37名でした。（研修部 井本記）



— 私の保護観察日記 —
島本地区

大柴 一 浩

活動はしていたものの友達も限られており、時間を持って余す中での犯行であった。
今は、大学でのクラブ

「今、着きました！」

活動やカードゲームという趣味の繋がりから友達も増え、アルバイトもしながら学業に勤（いそ）しみ成績も良好である。

1年間の付き合いだった
が、皆勤で面接日の5分前には必ず私の携帯にその言葉をに入れてきた。
面接の始まった頃は、面接の大半を聞き役に徹して接するという感じであった。

保護観察の対象者は、現在大学生である。高校の時は、文化系のクラブ
「なんでこんな子が犯罪を？」と自問自答するぐらいの優等生に見えた。
面接の始まった頃は、保護観察解除後の再犯がないことを心から願っている……。

保護観察の対象者は、現在大学生である。高校の時は、文化系のクラブ
あった。

— 随 筆 —

五領・磐手地区

中井 宏

生委員となり、今年是人権擁護委員としても活動していく予定です。
この3月までは、高槻市立公民館の館長として10年お世話になり、地域の方とのコミュニケーションを一番大切なものとして接してきました。

今年で保護司11年目を迎えておりますが、担当した対象者はわずか4名、環境調整が2名の少ない経験しかありませんが、地域活動部部长として「社会を明るくする運動」の行事に頑張っております。令和4年12月から民

得られないと確信し取り

ききよう俳壇

七月や芦屋の社明デイスカッション
語り部の減りゆく杞憂の終戦日

名誉会員 緋田 正俊

七夕や異国の平和願う系
漆黒の闇切り裂いて稲光

松本 大

ききよう歌壇

各地区の手作り作品並べおり続いた年月思いおこさる
厳冬の寒さをさけて出し入れせしハイピスカスが今ここに咲く

名誉会員 澤田 浩子

炎天下草取り時に吹く冷風は極楽からのこぼれ来る風
汗をかきシャワーの後にビール飲み昼寝をすればそこは極楽

愚狂人

報 告

会員 野村行良様(74歳)が
去る8月4日
会員 藤岡良造様(72歳)が
去る8月5日
ご逝去されました
ここに生前のご功績を偲び
謹んで哀悼の意を表します



あ と が き

2年前の夏、家に雌のクワガタが飛んできた。そのまま放って置こうかとも思ったが、雄を購入し飼ってみると、個体が増え、卵・幼虫・蛹(さなぎ)・成虫の成長過程を1年中世話することが、今は楽しみのひとつになっている。今年も孵化した個体の数を数えている自分があった。完全に嵌(はま)ってしまっている!! (大)

「50年に一度の」という気象表現は、「50年に一度は必ず起こる」とか「この先50年は起こらない」という意味ではない。大変なことが起こっているという状況を伝えているだけだ。「更生」といっても先のことは分からない。仕事に就けば再犯しないというわけではない。誰もが心の弱さと戦っている。自分自身が変わることだ。苦勞をして自分自身が強くなるしかない。(中)

老人は増えているのに老人会の数は著しく減ってきている。その大きな原因は運営する人間がいけないということらしい。「しんどいことはしたくない。でも文句は言う」という人が多くなり、だれも役につきたがらない。文句は聞き流し、役得を楽しむくらいでないと、役員は務まらない。(門)